

あお もり けん に まい ばし 2 い せき しゅつ ど ひん

青森県二枚橋2遺跡出土品

二枚橋(2)遺跡について

本遺跡は本州最北端、下北半島の津軽海峡に面する青森県むつ市大畑町涌館、八幡湯坂に所在します。平成8年、陸上競技場の造成工事中に遺跡が発見されました。そのため工事が中断され、平成9年に発掘調査が行われました。調査の結果、特に縄文時代晩期の資料が多く見つかりました。

調査地点は現在、大畑中央公園陸上競技場として利用されています。

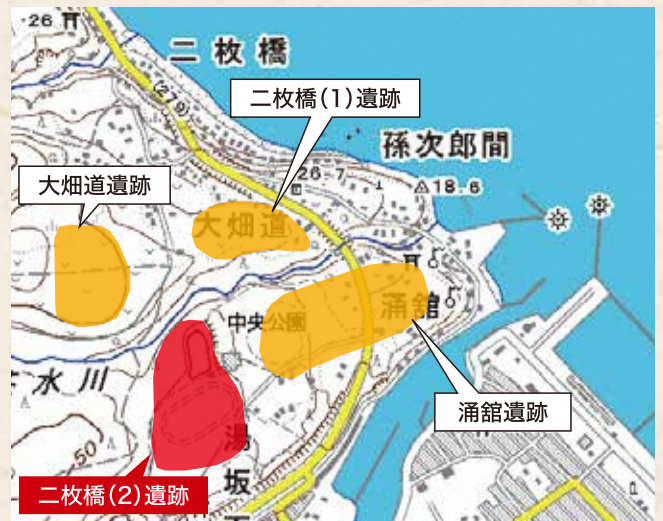
遺跡周辺は標高20～50mの台地が、大畑川と茶水川という2本の河川に挟まれながら、津軽海峡に向かって延びています。遺跡はその台地上、標高45m前後の平坦地を中心に立地していました。

周囲には4つの遺跡が分布しており、縄文時代早期～弥生時代まで(約1万年前～2千年前)の資料が見つかっています。晴れた日には北海道恵山や東通村尻屋崎を望むことができ、景観、立地の観点からも非常に重要な地点だったと考えられます。



二枚橋地区から津軽海峡、そして北海道を望む

二枚橋(2)遺跡の発掘調査では縄文時代早期、中期～晩期の資料が見つかりました。遺構としては、中期の竪穴建物跡3棟や晩期の集石遺構2基が確認されています。晩期には、土偶や土面といった祭祀にかかわると考えられる道具類が多数見つかったことから、この地で何らかの祭祀を行っていたことが想定されます。



二枚橋(2)遺跡と周辺の遺跡
(国土地理院H18発行の数値地図25000の「大畑」を基に作成)



集石遺構

標高約45mの台地の中央に位置していました。祭祀施設ではないかと考えられます。

出土品について

発掘調査で見つかった資料のうち、平成14年には土偶等の主要な資料602点が青森県の県重宝に指定されました。そして平成24年には、さらに資料が追加される形で1,308点が国の重要文化財に指定されました。

指定品には、日常的な道具である土器や石器の他、土偶、土面等の土製品、石刀等の石製品など祭祀に関わると考えられている道具も多数含まれます。土器は精巧に作られ、赤く塗られたものも多く、またそれらを模したミニチュア土器もあります。さらに、鹿角製の銚など骨角製品も4点指定されています。



どめん
土面

「土面」とは土製の仮面で、人の顔の部分のみを表現した土製品です。この遺跡からは20点の土面が見つっていますが、一遺跡から発見された数としては、なんと**全国最多!**



せきとう せきぼう
石刀・石棒

この遺跡からは約200点の石刀、石棒が見つっています(重要文化財指定品は63点)。特に柄の部分に精巧な文様が施されている資料は、**北海道南部を中心に**見つかる資料との**関連**が伺えます。



本遺跡最大の土偶
(高さ約25cm)

正座しているような
土偶も



どぐう
土偶



様々な土偶

二枚橋(2)遺跡からは晩期の土偶だけで150点以上見つっています(重要文化財指定品は80点)。左の写真の大型土偶や中央写真の正座しているように見える土偶等、他に類例のない土偶も含め、晩期後半の様々なタイプの土偶が揃っています。

重要文化財の保存修理事業について

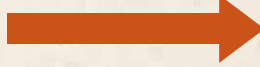
重要文化財に指定された資料のうち、劣化が進行している、あるいは今後劣化が進む恐れのある資料について、文化庁の指導と国庫補助金を受けながら、今後の公開活用に向けて平成25年度より修復を行っています。

〈これまで修復した資料〉

No.98 壺

修復前

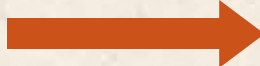
かつての整理作業で補強、復元に使用された石膏が劣化していました。



修復完了

写真左下方の穴は、意図的に開けられた可能性も考えられるため、塞がずにそのままとしました。余分な石膏も除去したことで、資料オリジナルの様相がより明確になりました。

底面修復前



石膏除去、樹脂充填

石膏を除去した上で、欠損部には樹脂を充填して補強していきます。

石膏を除去したところ、破損していない部分にも石膏が被っていたことが判りました。

充填した樹脂(色付け前)

No.222 台付鉢

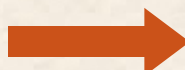
この土器は赤く塗られているため、解体補修だけでなく、赤色顔料が剥がれないよう、器面に樹脂を染み込ませて強化しました。

修復前



解体

接合部の接着剤を除去し、破片の状態に戻します。



修復完了

充填した樹脂に色を塗って仕上げました。



再度組立
樹脂充填

令和5年度の保存修理事業

令和5年度は土器1点、土製玉30点の修復と、修復した土製玉を一括で保管するための保存台の作製を進めています。

〈令和5年度の修復資料〉



No.131 鉢

この鉢は破片の接合部で歪み、段差が生じていたほか、劣化が進み、器面全体が剥落しやすい状態です。



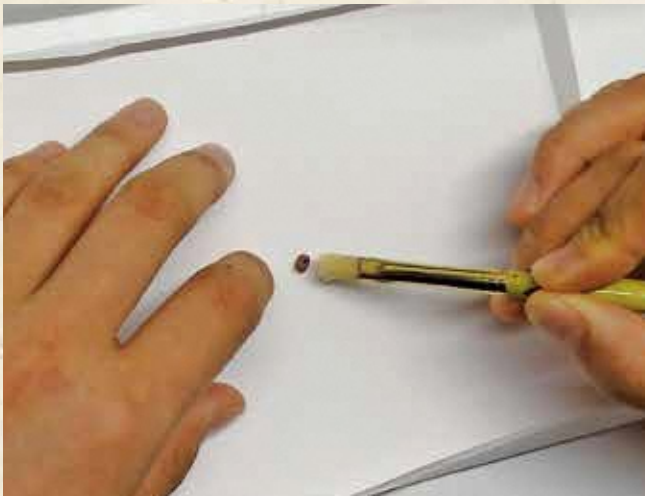
No.493 土製玉



No.498 土製玉

土製玉は粘土で作られた小さな玉で、現在のいわゆる「ビーズ」です。上の写真は拡大写真で、実物は5mm程度の大きさしかありません。

〈修復作業の様子〉



樹脂の含浸強化(土製玉)

土製玉は崩れて形がなくなってしまうほど非常に脆い資料のため、樹脂を染み込ませて丈夫にしています。



樹脂の充填(土器)

土器の破損部分に樹脂を入れて補修しています。丁寧に整形しながら進めます。この後、樹脂が目立たないよう色を塗って仕上げます。



土製玉の一括保存台

修復した土製玉を安全に保管できるよう、保存台も作製しています。このような保存台は展示等の活用も見据えて製作しています。

左の写真は令和4年度に作製した保存台です。